

南部クリーンセンターにおける火災被害の状況及び復旧に向けた対応等について

令和 8 年 1 月 1 4 日に火災が発生した南部クリーンセンター選別資源化施設（粗大ごみ破碎施設）については、焼損等の被害が甚大であり、現在もなお、復旧の目途が立っておらず、南部クリーンセンターへのごみの持込みを市民に限定しております。（以下「クリーンセンター」を「ＣＣ」という。）

火災発生以降、被害状況の調査を実施するなど復旧に向けた検討を行っているところであり、以下の被害状況及び復旧の考え方等の 3 点について、御報告いたします。

① 南部ＣＣ選別資源化施設の被害状況及び復旧の考え方

② 持込ごみの受入状況及び今後の対応（案）

現状、南部ＣＣへのごみの持込みを市民に限定し、南部ＣＣに持ち込まれたごみのうち、破碎が必要なごみは、東北部ＣＣに再搬送し処理している。また、搬入物検査を強化するため、持込ごみの事前予約の受付台数を、火災前より少なくしている。

③ ＣＣにおける設備面での火災対策の強化

1 南部ＣＣ選別資源化施設の被害状況及び復旧の考え方

(1) 被害状況の調査の進捗状況

ア 設備

被災した可能性のあるプラントや電気等の設備について、目視点検や動作確認等の調査を一旦完了した。

イ 建物

現在も調査を継続しており、1 2 月中に調査が完了する見込みである。

(2) 現時点で判明している被害状況

ア 設備

火元となった選別資源化施設の被害は広範囲に及んでおり、粗大ごみクレーンや破碎機などのプラント設備や、制御盤や給電ケーブルといった電気設備などが施設内全体にわたって被害を受けている。

イ 建物

粗大ごみピットの鉄筋コンクリート製の躯体や、粗大ごみクレーンを支えている鋼鉄製の梁、天井・壁の梁、鋼板製の屋根、壁のコンクリート部材や吸音材など、建物の被害も発生している。

参考資料 南部ＣＣ選別資源化施設の火災被害の状況（フロー図及び写真）（Ｐ５）

(3) 復旧費用の概算額及び工事期間

ア 設備

原状復旧工事の現時点の概算額は、約 8 5 億円

イ 建物

他都市の類似事例を参考にすると、1 0 億円程度を要する可能性がある。

⇒ 設備と建物を合わせて、現時点で 9 0 億円以上と見込まれる。

ウ 工事期間

約 1 年半と想定

<参考：南部 C C 選別資源化施設の建設費>

約 2 0 億円（南部 C C の総建設費 3 1 5 億円の内数）

(4) 復旧に向けた対応

上記(3)のとおり、当該施設を原状復旧するためには、現時点で建設費の 4 倍以上に相当する多額の経費を要する見込みのため、復旧工事費の削減の検討に加えて、設備のダウンサイジングや、南部 C C 施設内の空きスペースを活用した粗大ごみ破碎施設の新設など、複数の復旧方法に係るコスト等の比較を行い、最適な復旧方法を検討する。

(5) 復旧に向けた想定スケジュール

令和 9 年 3 月 復旧方法のとりまとめ。以降、復旧工事の設計を実施
令和 9 年 7 月 復旧工事の開始
令和 1 0 年度中 復旧工事の完了

2 持込ごみの受入状況及び今後の対応（案）

(1) 持込ごみの受入状況

- ・ 現状、南部 C C へのごみの持込を市民に限定し、南部 C C に持ち込まれたごみのうち、破碎が必要なごみは、東北部 C C に再搬送し処理している。また、事業者は東北部 C C に直接搬入していただいている。
- ・ 搬入物検査（危険物の混入確認）を強化するため、持込ごみの事前予約の受付台数を、火災前より少なくしている。
- ・ これらの措置により、令和 8 年 2 月から 7 月までの間の月ごとの持込ごみ受入量は、前年同月比で約 1 割から 3 割減少している。また、市民・事業者から、「事前予約が取りにくい。」「南部 C C での事業者の持込ごみの受入れを再開してほしい。」といった声が寄せられている。

<持込ごみに関する前年との比較（南部及び東北部 C C）>

	火災以前 (R7)	火災以後 (R8)	減少率
(予約枠) 平日	1 日 600 台	1 日 300 台	△ 50%
第 2 ・ 4 土曜日	1 日 600 台	1 日 210 台	△ 65%
(2 月 ~ 7 月) 予約枠	85, 000 台	42, 000 台	△ 51%
受入台数	50, 000 台	40, 000 台	△ 20%
受入量	11, 000 t	9, 000 t	△ 18%
受入台数 / 予約枠	59%	95%	-

(2) 今後の対応（案）

南部ＣＣの破碎施設が復旧するまでの長期間、ＣＣでの持込ごみの受入れを制限し続けることは、市民・事業者の負担が極めて大きいこと等を踏まえ、以下の対応を検討している。

ア 南部ＣＣにおける事業者の小型ごみ（破碎不要なごみ）の受入れを、令和８年９月１４日から再開する。

同年１１月からは、粗大ごみも含めた事業者の南部ＣＣでの持込ごみ受入れを全面再開するとともに、事前予約の受付台数も、搬入物検査の強化を継続しつつ、段階的に火災前の台数に戻していく。

イ そのために、南部ＣＣから東北部ＣＣへの再搬送の回数を増やすと同時に、東北部ＣＣにおける破碎処理量を増やす（破碎処理施設の運転時間の延長等）。

また、東北部ＣＣ破碎処理施設の整備等により休止する期間等については、粗大ごみの処理を民間事業者に委託する。

ウ 並行して、破碎処理量の削減、更なる資源循環の推進のため、衣装ケース等のプラスチック製の家具や羽毛布団など、これまで、破碎し、焼却処理していた粗大ごみの再資源化や古着類・おもちゃのリユースに取り組む（実証事業（※）を実施）。

※ 実証事業の概要

市町村の資源循環の取組促進のために事例収集を進めている環境省と連携して、南部ＣＣ及び東北部ＣＣで、市民が持ち込まれるプラスチック製衣装ケースや羽毛布団を回収・再資源化するとともに、上京リサイクルステーションで、古着類、おもちゃといったリユースできる物を回収し、希望者に提供するもの（令和８年１１月～１２月予定）

3 ＣＣにおける設備面での火災対策の強化

(1) 発火・火災の発生状況

本件火災以後、リチウムイオン電池使用製品の適切な排出に係る周知啓発の強化、搬入物検査の強化などに取り組み、ＣＣにおいて大規模な火災は発生していないが、発火自体は頻発しているのが現状である。

令和８年度（６月３０日時点）	： 発火は１０４件、うち火災は１件（※）
令和７年度	： 発火は３９５件、うち火災は１件
※ 東北部クリーンセンター焼却ごみピット	（令和８年５月８日）

(2) 今後の対応（案）

ごみピットにおける初期消火能力の増強を図る必要があることを踏まえ、以下の対応を検討している。

ア ごみピットのごみの層の深い位置でのリチウムイオン電池等による発火への対策として、全てのＣＣのごみピットに「ＡＩ煙検知システム」を導入する。

※ 東北部ＣＣは、プラントメーカーの実証機器を設置予定

イ 東北部ＣＣにおいて、ごみピット放水銃と発火検知装置との自動連動化（現在の放水銃は手動操作）及び放水銃増設（１基→２基）を行う。

※ 南部及び北部ＣＣは、竣工時から自動連動化した放水銃を２基設置済み。

ウ 東北部ＣＣにおいて、持込ごみプラットホームに監視カメラを設置する。

※ 南部ＣＣについては、選別資源化施設の復旧後に設置予定

【参考】火災発生後に新たに取り組んだりチウムイオン電池混入防止対策（予定のものも含む。）

(1) 回収拠点の拡充

＜土日祝又は１７時以降も利用可能な拠点＞

- ・ 図書館及びいきいき市民活動センター（計３２か所）
- ・ 泉涌寺消防出張所やイオンスタイル京都五条に資源物回収拠点を新設（泉涌寺消防出張所は令和８年７月開始、それ以外の施設は令和８年９月開始予定）

＜土日においても多品目の受入れや車での搬入が可能な回収拠点＞

- ・ 上京リサイクルステーション・南部まち美化事務所に加えて、山科・西京まち美化事務所の資源物の受入れを開始（令和８年１０月開始予定）

(2) 周知啓発の強化

啓発動画をＳＮＳのデジタル広告や駅のデジタルサイネージで発信するほか、地下鉄のホーム可動柵に広告を掲示（令和８年１０月開始予定）

(3) 再資源化処理

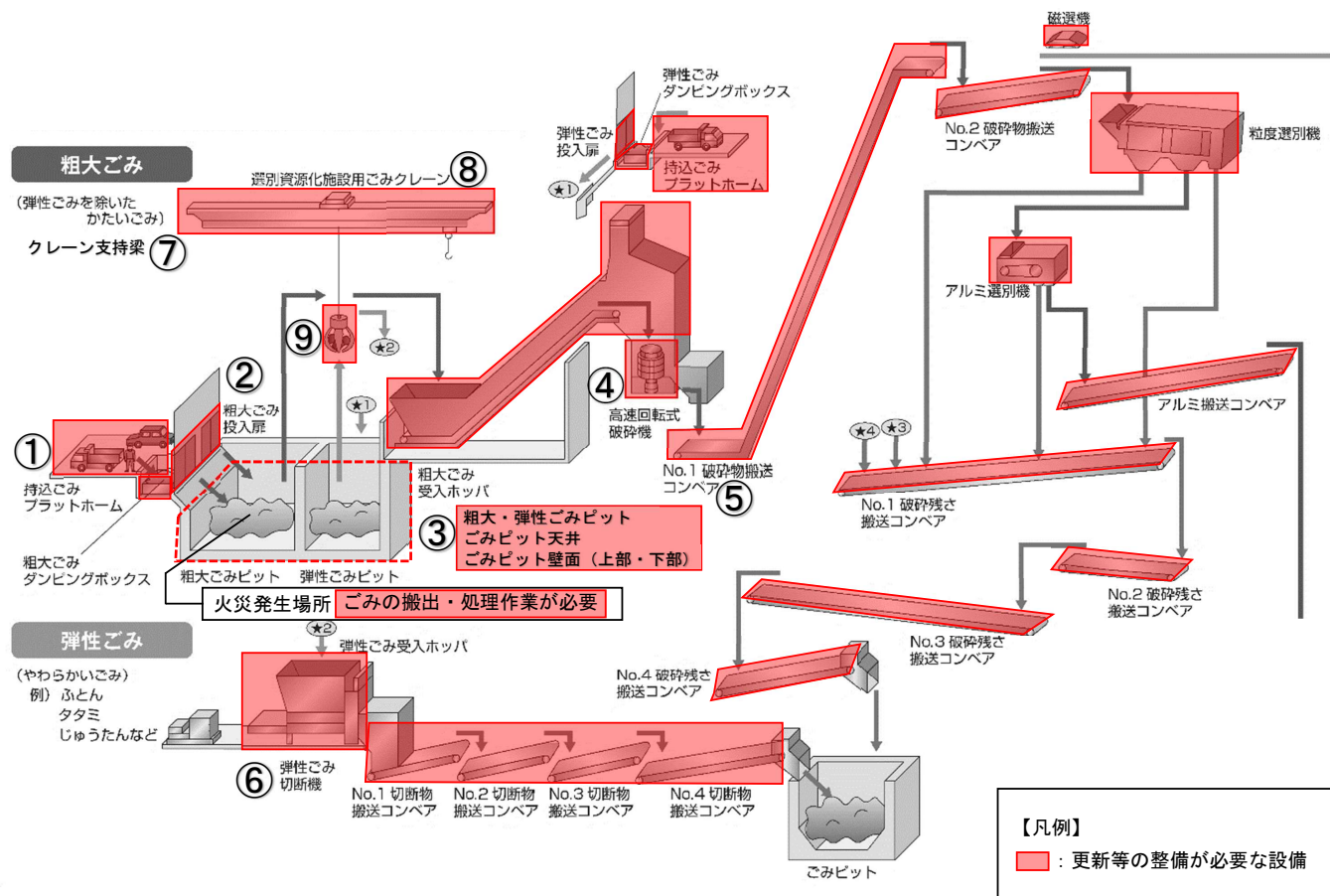
ＣＣで処理していた電化製品（持込ごみ及び大型ごみ収集分）について、全て再資源化処理を実施（令和８年８月開始）

(4) 搬入物検査の強化や粗大ごみ破碎施設（東北部ＣＣ）の貯留量の低減

ごみの持込みを受け入れている南部・東北部ＣＣにおいて、受付台数の縮減により１件ごとの検査時間を長くすることにより、危険物の混入確認作業として持込ごみの搬入物検査を強化

また、粗大ごみ破碎施設における火災発生リスクを下げるため、東北部ＣＣにおいて、粗大ごみピットの貯留量を可能な限り低く設定

【参考資料】 南部クリーンセンター選別資源化施設の火災被害の状況



① プラットホーム【建物/設備】
壁の防音材のほか、電動シャッター、照明などの電気設備（盤、ケーブル等）、消防設備等の多くの設備が焼損している。
※ ②、③等（粗大ゴミピット周辺）も同様



② 投入扉【設備】
扉や駆動装置が焼損している。



③ 粗大ごみピット【建物】
コンクリートの火害調査にて補修方法を確認する。焼け残った粗大ごみを除去する必要がある。



③ ごみピット天井【建物】
折半屋根（鋼板製の屋根）の
焼損とともに、シール材が熱で
溶け、雨漏りが数か所発生して
いる。天井の梁（一部）は火害調
査にて補修方法を確認する。



④ 高速回転式破砕機【設備】
大型のモーターなどが焼損している。



⑦ ごみクレーン支持梁【建物】
焼損跡があり、火害調査（→部）にて補修方法を確認する。



⑤ 破砕物搬送コンベア【設備】
コンベアの内部全体が焼けて
いる。



⑧ ごみクレーン（上部の駆動機）
電動機や電気ケーブルなど全体が焼損している。（駆動機を支持する桁部分は概ね健全）



⑥ 弾性ごみ切断機【設備】
煙と熱の影響で切断機全体が
焼損している。



⑨ クレーンバケット（掴む部分）【設備】
油圧モーターやシリンダー、
電気ケーブルが焼損している。



③ ごみピット壁（上部）【建物】
壁面に亀裂が多数発生している。梁等（一部）は火害調査にて補修方法を確認する。



③ ごみピット壁（下部）【建物】
壁面に亀裂が多数発生している。